



第10回 メディア委員会資料

2020年2月4日

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

目次

1. 2019年の主な活動報告について
2. 東京2020参画プログラムの現状について
3. 復興に関する取組みについて
4. 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けたポスター募集企画について
5. アクション&レガシーレポートについて

東京2020大会の概要

競技日程

オリンピック(17日間)
7月24日
~8月9日

パラリンピック(13日間)
8月25日
~9月6日

選手数

オリンピック
11,090人

パラリンピック
4,400人

競技数・種目数

オリンピック
33競技 339種目

パラリンピック
22競技 539種目

会場

うち
都外

43会場

19会場



職員数

現在(2019年12月1日時点)
3.2千人

大会時(予定)
8.0千人

ボランティア

11万人

大会ボランティアのほか、
都市ボランティアを含む。

1. 2019年の主な活動報告事項

1. 競技会場
2. 競技スケジュール
3. テストイベント
4. 開会式・閉会式
5. 聖火リレー
6. 機運醸成に向けた取組み
7. 子どもの参画
8. 持続可能性
9. 大会ボランティア
10. 大会チケット
11. メダルデザイン
12. 組織委員会予算V4

1 競技会場

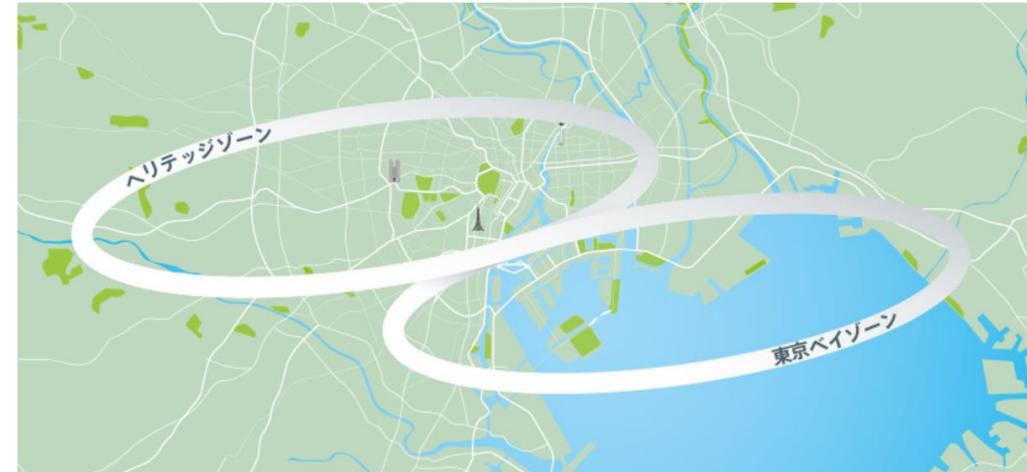
- 競技は東京1964大会のレガシーを引き継ぐ**ヘリテッジゾーン**、都市の未来を象徴する**東京ベイゾーン**のほか、**地方会場**で実施。（約40%が地方会場での開催。）
- 2019年11月にマラソン・競歩の会場が札幌市に変更となり、最終的にオリンピックは**42会場（33競技）**、パラリンピックは**21会場（22競技）**となった。
- 青海、お台場、有明地区において、祝祭空間を創出する**アーバンクラスター構想**が進展。
- 晴海に選手団が宿泊する**選手村を建設**。

【 競技会場等例 】

オリンピックスタジアム（陸上競技・サッカー）



選手村予定地（東京都中央区晴海）



2-1 競技スケジュール（オリンピック）

- 史上最多 33 競技 339 種目が 42 の競技会場で繰り広げられ、絶え間ない熱狂が 17 日間に凝縮されたエキサイティングなスケジュール。
- 野球・ソフトボール、空手、スケートボード、スポーツクライミング及びサーフィンの 5 競技について、追加競技として実施。
- 大会中盤、多くの観客とテレビ視聴者の注目を集める 8 月 1 日（土）には、21 種目でメダリストが決定。

【 競技スケジュール例 】



競泳（東京アクアティクスセンター）

7月25日（土）～8月2日（日）



体操競技（有明体操競技場）

7月25日（土）～7月30日（木）
8月2日（日）～8月4日（火）



ラグビー（東京スタジアム）

7月27日（月）～8月1日（土）

- オリンピック競技スケジュール（種目実施日程）の詳細は下記URLに記載。
<https://tokyo2020.org/jp/games/schedule/olympic/>

※ 競技スケジュールは今後の調整により、一部変更になる可能性があります。

2-2 競技スケジュール（パラリンピック）

- 8月25日の開会式翌日から9月6日の閉幕まで、12日間にわたり22競技539種目が21会場で実施。
- バドミントン及びテコンドーの2競技について、追加競技として実施。
- 大会全体を通じて盛り上がりが続くよう、人気競技がバランスよく配置。

【競技スケジュール例】



車いすテニス（有明テニスの森）

8月28日（金）～9月5日（土）



車いすラグビー（国立代々木競技場）

8月26日（水）～8月30日（日）



ゴールボール（幕張メッセCホール）

8月26日（水）～9月4日（金）

- パラリンピック競技スケジュール（種目実施日程）の詳細は下記URLに記載。
<https://tokyo2020.org/jp/games/schedule/paralympic/>

※ 競技スケジュールは今後の調整により、一部変更になる可能性があります。

3-1 テストイベント

- 本大会の成功に向けて、競技運営及び大会運営の能力を高めることを目的として、各競技団体や東京2020組織委員会などが主催でテストイベントを実施。
- 2020年2月4日現在、全56回のうち37回※が実施済み。

※ 2018年度実施分（2回）含む。



東京2020組織委員会主催のテストイベントで使用するロゴデザイン

【テストイベントスケジュール】

2019						2020				
7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
WAVE 1（22競技）			WAVE 2（12競技）			WAVE 3（20競技）				



Tokyo 2020 / Shugo TAKEMI

【テストイベントの実施状況】

- ・ 本大会に向けて学びとなる事例はあったものの、MOC（メインオペレーションセンター）で判断を要するようなレベルの問題は発生していない。
- ・ 競技運営は、既存・新設会場とも各競技概ね円滑に実施されており、IFからの評価も概ね良好。

3-2 テストイベント（暑さ対策の試行）

【暑さ対策検討の全体方針】

1 東京2020大会に向けた暑さ対策の全体像

⇒ 対象者ごとに、場面ごとに、国や東京都、IOC、IF/NFと連携して実施

2 対象別の暑さ対策

(1) アスリート向けの暑さ対策 (2) 観客向けの暑さ対策 (3) 大会ボランティアを含む大会スタッフ向けの暑さ対策

3 今夏の取組みを来年度に活かす

暑さ対策検証内容		
アスリート向け	<ul style="list-style-type: none"> 大会本番時を想定した各競技の暑さ対策 	<ul style="list-style-type: none"> 空調付きアスリートラウンジ、水・氷の提供、アイスバス、スポットクーラーおよびミストファンの設置などの基本的な暑さ対策 その他、競技特性に応じた個別の暑さ対策
観客向け	<ul style="list-style-type: none"> 疑似PSA待機列 WBGT値計測 ファーストレスポonder巡回 注意喚起 暑さ対策グッズの配布 クールオフスペース 降雪機 	<ul style="list-style-type: none"> 待機列の誘導オペレーション検証 大型冷風機、扇風機の運用、携帯型ミスト噴霧 テント内外、観客席、木陰、スタッフ用本部、乗降場での計測 熱中症予防、水分補給を促すスタッフ巡回 体調不良者早期発見、医務室との連携 声かけ、丸型穴あきチラシ配布 ネッククーラー、丸型穴あきチラシ等の配布(ラストマイル) 室内WBGT値計測、利用者状況 降雪機による効果検証、WBGT値計測
大会スタッフ向け	<ul style="list-style-type: none"> 休憩の取り方 暑さ対策グッズの配布 	<ul style="list-style-type: none"> 一部会場で休憩のローテーション方針を提示し実施。 ボランティアにアンケートを行い、適切な休憩時間について検証。 全会場で飲料水、一部会場で塩分補給製品、汗拭きシート、冷却シート、アイスクリーム、体調管理シートを配布。 ボランティアにアンケートを行い、グッズの有効性を検証。
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> テストイベントページでの注意啓発情報発信試行 国と連携したアンケート調査 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車競技（ロード）（マウンテンバイク）のテストイベントページで、熱中症注意喚起情報を発信。 環境省、観光庁の御協力のもと、訪日外国人向けアンケートを実施。

4 開会式・閉会式

○ 4式典を一体と捉え、統一あるものとするために全体のプラン・ストーリーを作成していく。

＜4式典のあり方＞

【オリンピック開会式】

- ・国内外からの注目度が非常に高い式典であり、世界から集うアスリートや観客を歓待する。
- ・東京2020大会の幕開けの式典として4つの式典の萌芽である。
- ・東京2020大会の担う歴史的意義や社会的意義、招致時のコンセプトに鑑みて4式典を貫くポジティブなメッセージを世界に発信する。

【パラリンピック開会式】

- ・東京は二度目の夏季パラリンピックを開催する史上初の都市であり、中でも開会式は世界中の注目を集める機会である。
- ・違いを認め合い、支え合い、活かしあうことで、多様で平等な共生社会を目指すことを世界に伝える。
- ・多様なものを様々にかけ合わせることで、既成概念を超えた新しい可能性を探り、人々の意識を変えるきっかけにする。

【オリンピック閉会式】

- ・競技を終えたアスリートの健闘を称える。また、アスリートに限らず、人々の心に感動を残した方々も讃えたい。
- ・アスリートだけでなく観客も巻き込み、国を超えた一体感を生み出す。
- ・その熱気と興奮を、続いて開催されるパラリンピックへと引き継ぐ。

【パラリンピック閉会式】

- ・パラリンピックのフィナーレであるとともに、東京2020大会の全体を締めくくるフィナーレでもある。
- ・持続可能な社会に向けて、「和」の精神に基づき、自然や人間社会がバランスをとり、共存していく新しい時代のスタートラインとする。
- ・世界の調和と明るい未来への可能性を示し、子どもたちや若い世代への継承の場とする。

＜演出企画の実施体制＞（敬称略）

氏名	肩書等	制作体制
野村萬斎	狂言師	チーフ・エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター（東京2020大会総合）
山崎貴	映画監督	エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター（オリンピック担当）
佐々木宏	クリエイティブディレクター	エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター（パラリンピック担当）

氏名	肩書等	制作体制
川村元気	映画プロデューサー／小説家	クリエイティブ・ディレクター（東京2020総合チームメンバー）
来栖良依	クリエイティブプロデューサー クリエイティブディレクター	
椎名林檎	演出家・音楽家	
MIKIKO	演出振付家	

5-1 聖火リレー

- オリンピック聖火リレーコンセプト 「Hope Lights Our Way / 希望の道を、つなごう。」
- パラリンピック聖火リレーコンセプト 「Share Your Light / あなたは、きっと、誰かの光だ。」



2020年3月20日(金)宮城県の航空自衛隊松島基地に聖火を届ける、東京2020オリンピック聖火特別輸送機「TOKYO 2020号」



2020年3月26日(木)福島県の「ナショナルトレーニングセンターJヴィレッジ」にて聖火リレーがグランドスタート。

東京2020オリンピック聖火リレー 各都道府県 実施日一覧

都道府県名	日 程	都道府県名	日 程	都道府県名	日 程
① 福島県	3/26(木)~3/28(土)	⑩ 徳島県	4/16(木)~4/17(金)	③③ 富山県	6/3(水)~6/4(木)
② 栃木県	3/29(日)~3/30(月)	⑪ 香川県	4/18(土)~4/19(日)	③④ 新潟県	6/5(金)~6/6(土)
③ 群馬県	3/31(火)~4/1(水)	⑫ 高知県	4/20(月)~4/21(火)	③⑤ 山形県	6/7(日)~6/8(月)
④ 長野県	4/2(木)~4/3(金)	⑬ 愛媛県	4/22(水)~4/23(木)	③⑥ 秋田県	6/9(火)~6/10(水)
⑤ 岐阜県	4/4(土)~4/5(日)	⑭ 大分県	4/24(金)~4/25(土)	③⑦ 青森県	6/11(木)~6/12(金)
⑥ 愛知県	4/6(月)~4/7(火)	⑮ 宮崎県	4/26(日)~4/27(月)	③⑧ 北海道	6/14(日)~6/15(月)
⑦ 三重県	4/8(水)~4/9(木)	⑯ 鹿児島県	4/28(火)~4/29(水)	③⑨ 岩手県	6/17(水)~6/19(金)
⑧ 和歌山県	4/10(金)~4/11(土)	⑰ 沖縄県	5/2(土)~5/3(日)	④① 宮城県	6/20(土)~6/22(月)
⑨ 奈良県	4/12(日)~4/13(月)	⑱ 熊本県	5/6(水)~5/7(木)	④② 静岡県	6/24(水)~6/26(金)
⑩ 大阪府	4/14(火)~4/15(水)	⑲ 長崎県	5/8(金)~5/9(土)	④③ 山梨県	6/27(土)~6/28(日)
⑪ 徳島県	4/16(木)~4/17(金)	⑳ 佐賀県	5/10(日)~5/11(月)	④④ 神奈川県	6/29(月)~7/1(水)
⑫ 香川県	4/18(土)~4/19(日)	㉑ 福岡県	5/12(火)~5/13(水)	④⑤ 千葉県	7/2(木)~7/4(土)
⑬ 高知県	4/20(月)~4/21(火)	㉒ 山口県	5/14(木)~5/15(金)	④⑥ 茨城県	7/5(日)~7/6(月)
⑭ 愛媛県	4/22(水)~4/23(木)	㉓ 島根県	5/16(土)~5/17(日)	④⑦ 埼玉県	7/7(火)~7/9(木)
⑮ 大分県	4/24(金)~4/25(土)	㉔ 広島県	5/18(月)~5/19(火)	④⑧ 東京都	7/10(金)~7/24(金)
⑯ 宮崎県	4/26(日)~4/27(月)	㉕ 岡山県	5/20(水)~5/21(木)		
		㉖ 鳥取県	5/22(金)~5/23(土)		
		㉗ 兵庫県	5/24(日)~5/25(月)		
		㉘ 京都府	5/26(火)~5/27(水)		
		㉙ 滋賀県	5/28(木)~5/29(金)		
		㉚ 福井県	5/30(土)~5/31(日)		
		㉛ 石川県	6/1(月)~6/2(火)		

5 - 2 聖火リレー

聖火リレートーチデザイン

- 日本人に最もなじみ深い花である桜をモチーフ。
- 素材の一部に東日本大震災の仮設住宅のアルミ廃材を再利用。
- 新幹線の製造にも使われている製造技術（アルミ押出成形）を使用。

オリンピック聖火リレートーチ



色：桜ゴールド

パラリンピック聖火リレートーチ



色：桜ピンク

聖火ランナーユニフォームデザイン

- オリンピックユニフォームは、日本らしさとともに、聖火リレーから東京2020大会の本大会につないでいく、その連続性を表現。
- パラリンピックユニフォームは、人と人、人と社会が繋がることで生まれる輝きを、大会ルックである市松模様をもとにデザイン。



オリンピックユニフォーム



パラリンピックユニフォーム

聖火ランナーの募集状況

- パートナー4者（コカ・コーラ、トヨタ自動車、日本生命、NTT）と、都道府県で聖火ランナーを募集した結果、延べ535,717名の応募（2019年9月）
※ 現在、募集は終了
- 2019年12月25日より、応募者本人へオリンピック聖火ランナー正式決定を連絡。

6 機運醸成に向けた取り組み

○ 一人でも多くの方が参画し、大会をきっかけにした成果を未来につなげるため、オリンピック・パラリンピックの機運を醸成。

主なイベント	取組内容
東京2020参画プログラム	様々な組織・団体が東京2020大会の盛り上げ、大会後のレガシー創出を目指し、オールジャパンで取り組む参加型のプログラムを実施（2016年10月～）。2019年12月末時点で約139,000件を認証。
東京2020 NIPPONフェスティバル	参画プログラムの集大成として世界から注目が集まる時期に東京2020大会公式文化プログラムとして、大規模な4つのプログラムを通して我が国の誇る文化を国内外に強く発信（2020年4月頃～）
オリンピック1年前セレモニー/ パラリンピック1年前セレモニー	国内外からゲスト(オリンピック・パラリンピアン、東京2020聖火リレー公式アンバサダー等)をお招きしたセレモニーを行い、1年後にやってくる大会に向け一体感を醸成（2019年7月・8月）
東京2020公式ライセンス商品	全国各地の伝統工芸品を東京2020公式ライセンス商品化。全国各地の伝統工芸品を商品化して文化的側面からも機運醸成を図っている。



1 Year to Go!



7 子どもの参画

【主な取り組み】

- 史上初、**大会マスコットを小学生の投票**で決定。16,769学校・205,755学級（全国の小学校の約8割）の児童たちが参加。
※ 小学部を置く特別支援学校や海外の日本人学校、国内の外国人学校、不登校児童が通う施設等を含む。
- オリンピック・パラリンピック教育に取り組む学校を東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校（愛称「**ようい、ドン！スクール**」）として認証。
※ 2019年12月1日時点で、全国約18,219校を認証済み。
- 平和な世界に向けてスポーツの果たす役割をテーマとした、**東京2020高校生英語スピーチコンテスト**や、運動会や体育祭等におけるオリンピック・パラリンピックに関連した取組を募集し表彰する**みんなのスポーツフェスティバル**の実施。
- 学校連携観戦プログラムとして、チケットを一律**2,020円**で、**子供たちに観戦機会**を提供。（100万人以上の小中高生に、大会へ観戦に来てもらう試み。）
- セキュリティチェック時に設けるフェンスの代わりに、地元子ども達が育てたアサガオ等にメッセージを添えて並べる「**フラワーレーンプロジェクト**」の実施。
- IPC公認教材である「**I'mPOSSIBLE（アイム・ポッシブル）**」を全校配布。
※ JPC・IPCの取組み



ミライトワとソメイティ



東京2020オリ・パラ教育実施校



ソメイティとともに、
花が咲く日を楽しみに

8 持続可能性

大会の持続可能性コンセプト 「Be better, together (より良い未来へ、ともに進もう。)」

国連とのSDGsの推進協力に関する基本合意書へ署名

2018年11月14日、国際連合と東京2020大会を通じたSDGsの推進協力に関する基本合意書へ署名。国際連合とSDGsについて基本合意書を締結するのは、歴代のオリンピック、パラリンピック組織委員会として初めての試み。

東京2020大会の持続可能性の取組み例

1. 都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

使用済みの携帯電話をはじめとする小型家電等から東京2020大会の入賞メダルを製作。

2. 日本の木材活用リレー ～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～

参加自治体（全63自治体）から借り受けた木材を使用して選手村ビレッジプラザを建設し、大会後は各自治体にて木材をレガシーとして再活用。

3. 表彰台プロジェクト ～みんなの表彰台プロジェクト～

国内から集める使用済プラスチックの再生利用を基本に、海洋プラスチックも一部活用して表彰台を製作。



みんなで作る選手村ビレッジプラザ

9 大会ボランティア

- 東京2020組織委員会が募集し、競技会場や選手村、その他大会関連施設で、観客サービスや競技運営のサポート、メディアのサポート等、大会運営に携わる活動を実施。
- 応募完了者は204,680人（大会ボランティアマイページ登録者数262,437人）

募集概要（抜粋）

- ・ 募集人数：80,000人（2002年4月1日以前に生まれた方（18歳以上の方））
- ・ 活動期間・時間：10日以上を基本とし、休憩・待機時間を含む1日8時間程度

- 2019年7月19日（金）の発表イベントにて、フィールドキャスト（大会スタッフ）及びシティキャスト（都市ボランティア）のユニフォームが決定。
- 2019年10月から始まる共通研修において、大会本番に必要な知識・スキルを習得するとともに、フィールドキャストの一員としてのマインドを醸成。

【共通研修の概要】

- ・ 対象者：大会ボランティア8万人
- ・ 期間：2019年10月～2020年2月
（海外在住者向けは2020年6月以降）
- ・ 開催場所：東京、北海道、宮城、福島、茨城、富山、静岡、愛知、大阪、広島、福岡
- ・ 男女比：男性39%、女性61%（10代～80代まで幅広く参加予定）
- ・ 国籍：日本国籍88%、日本国籍以外12%（約120カ国の方が参加予定）



ユニフォーム発表イベント

10 大会チケット

○ 東京2020大会公式チケット販売サイトを通じて大会観戦チケット抽選申込を開始。

チケットの価格	開会式	閉会式	競技一般チケット
オリンピック	12,000円～300,000円	12,000円～220,000円	2,500円～130,000円
パラリンピック	8,000円～150,000円	8,000円～90,000円	900円～7,000円

チケットスケジュール

オリンピック	2019年5月9日～5月29日	第1次抽選販売（約322万枚）
	2019年8月8日～8月19日	第1次抽選の追加抽選販売（約35万枚） ※第1次抽選で1枚も当選しなかった方対象
	2019年11月13日～11月26日	第2次抽選販売
	2020年春～	<ul style="list-style-type: none"> 公式チケット販売サイト 街なかのチケット販売所 公式リセール
パラリンピック	2019年8月22日～9月9日	第1次抽選販売（約60万枚）
	2020年1月～	第2次抽選販売
	2020年春～	<ul style="list-style-type: none"> 公式チケット販売サイト 街なかのチケット販売所 公式リセール



※大会計画や競技スケジュール等により、価格や販売開始時期等は変更となる場合があります。

11 メダルデザイン

- メダルは「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」を通じて、全国の皆様からご提供いただいた使用済み携帯電話等の小型家電から抽出した金属を用いて製作。
- 東京 2020 オリンピック、パラリンピック それぞれの1年前セレモニーにてメダルのデザインを発表。

【東京2020オリンピックメダルデザイン】



- ・ 光や輝きをテーマ。
- ・ 無数の光を集めて反射させ、アスリートや周りで支えている人たちのエネルギーを象徴。
- ・ 多様性を示す、様々な輝きをもたらすデザイン。
- ・ メダルの輝きは、世界中の人々が手をつないでいる様子もイメージ。

【東京2020パラリンピックメダルデザイン】



- ・ 人々の心を束ね、世界に新たな風を吹き込む「扇」をモチーフにしたデザイン。
- ・ 扇を束ねる「要」部分に、人々の心を束ねるアスリート自身を表現。「扇」面に、人々の心を生命力として捉え、日本に生きる自然を表現。
- ・ 金、銀、銅メダルの違いが触れて分かるよう、メダル側面に円形のくぼみ加工。大会史上初めての仕様。
- ・ 「TOKYO2020」の文字をおもて面に点字で表記。

12 組織委員会予算V4

○組織委員会予算V4(バージョン4)を発表。(2019.12.20)

○東京都と国が負担するその他の経費のうち、東京都分はV3 から競歩の競技会場変更に伴う30 億円減の5,970億円、国分はV3 同額の1,500 億円で合計7,470 億円となり、組織委員会6,030 億円と合わせた大会経費の支出計は1 兆3,500 億円で、V3と同額。

【参考】 経費分担試算(V4 予算)

	組織委員会	東京都	国	支出計
会場関係	1,870 億円 (400 億円)	4,960 億円 (200 億円)	1,400 億円 (200 億円)	8,230 億円 (800 億円)
恒久施設	—	2,260 億円	1,200 億円	3,460 億円
仮設等	1,010 億円	2,020 億円	200 億円	4,770 億円
エネルギーインフラ	160 億円	330 億円		
テクノロジ	700 億円	350 億円		
大会関係	4,060 億円 (200 億円)	910 億円 (100 億円)	100 億円 (100 億円)	5,070 億円 (400 億円)
輸送	410 億円	300 億円	100 億円	5,070 億円
セキュリティ	330 億円	520 億円		
オペレーション	1,240 億円	90 億円		
管理・広報	650 億円	0 億円		
マーケティング	1,250 億円	0 億円		
その他	180 億円	0 億円		
調整費(組織委員会)／緊急対応費(東京都)	100 億円	100 億円	—	200 億円
支出計	6,030 億円 (600 億円)	5,970 億円 (300 億円)	1,500 億円 (300 億円)	13,500 億円 (1,200 億円)
予備費	270 億円			

(注1) 予期せず発生し得る事態等に対処する必要が生じた場合、関係者は役割分担に応じて対応する。

(注2) ()は、うちパラリンピック経費分である。

2. 東京2020参画プログラム

概要

東京2020大会を契機として、スポーツだけでなく、文化芸術や地域における世代を超えた活動、被災地への支援などにオールジャパンで皆が参加し、未来につなぐプログラム

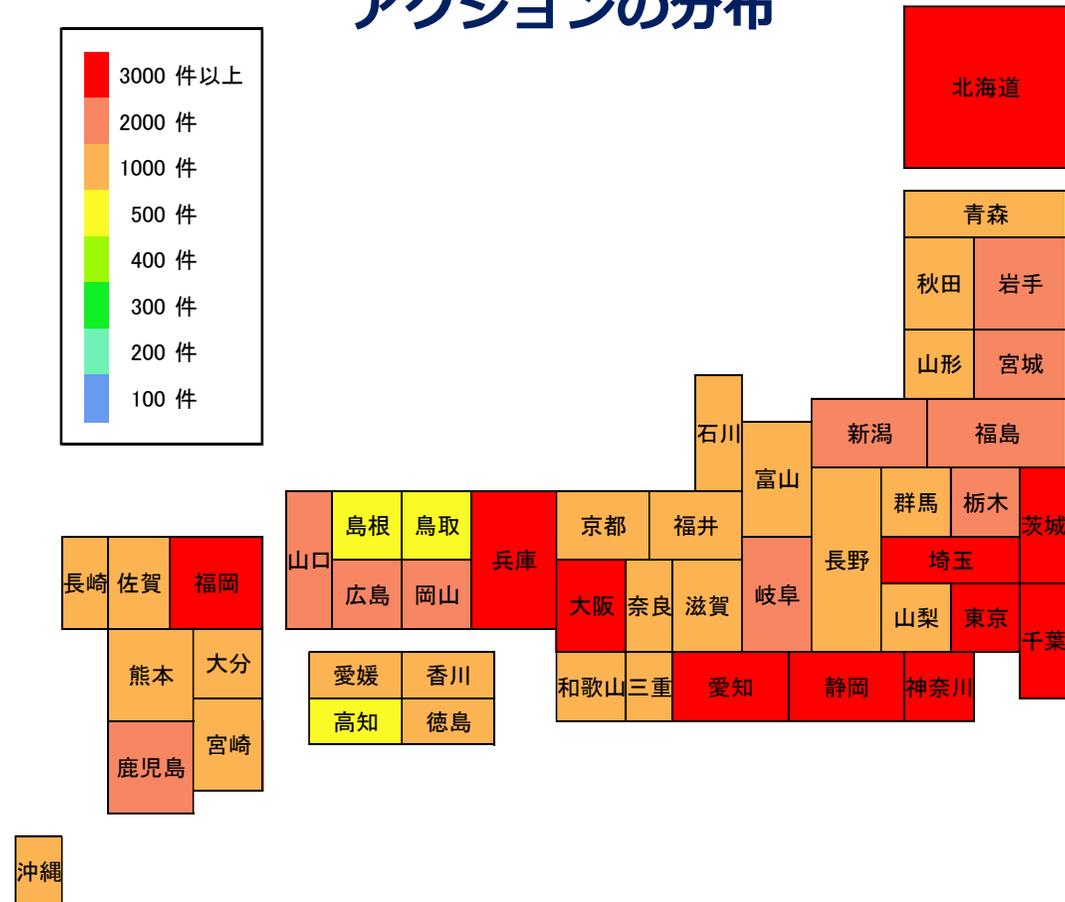


2. 東京2020参画プログラム

参画状況

➤ 2019年12月時点で、**約139,000件** のアクションを認証

アクションの分布



3. 復興に関する取組み

オリンピック聖火リレー

- 聖火リレー開催に先立ち、ギリシャで採火した聖火を「復興の火」として東日本大震災の被災3県（岩手、宮城、福島）で順次展示。聖火トーチの素材には、東日本大震災の仮設住宅のアルミを一部使用。
- オリンピック聖火リレーの出発地を福島県とするとともに、被災3県については、各県3日間を設定。

東京2020オリンピック聖火リレー ギリシャ聖火採火式～福島県グランドスタート日程

日時	内容
3月12日（木）	ギリシャ古代オリンピア市聖火採火式
3月12日（木）～ 19日（木）	ギリシャ国内リレー（8日間）
3月19日（木）	ギリシャアテネ市にて聖火引継式
3月20日（金）	宮城県：航空自衛隊松島基地に到着。以下、「復興の火」展示場所
3月20日（金）	宮城県石巻市 「石巻南浜津波復興祈念公園」
3月21日（土）	宮城県仙台市「仙台駅東口エリア」

日時	内容
3月22日（日）	岩手県「三陸鉄道・SL銀河（宮古駅～釜石駅～花巻駅）」
3月23日（月）	岩手県大船渡市 「キャッセン大船渡エリア」
3月24日（火）	福島県福島市 「福島駅東口駅前広場」
3月25日（水）	福島県いわき市「アクアマリンパーク」
3月26日（木）	福島県楡葉町・広野町 「ナショナルトレーニングセンター」ヴィレッジ」にてグランドスタート

3. 復興に関する取組み

聖火台・聖火リレートーチ

- 聖火台および一部の聖火リレートーチの燃料に、世界最大級の再生可能エネルギー由来水素製造施設が設置される福島県浪江町で製造される水素も活用。

福島あづま球場・宮城スタジアム

- 福島あづま球場で野球・ソフトボールを実施。宮城スタジアムでサッカーを実施。
- 2020年7月22日、福島あづま球場のソフトボールが、オリンピックの全競技のスタートとなる。

ビクトリーブーケ

- メダリストに授与する副賞「ビクトリーブーケ」に岩手、宮城、福島の各県で育てられた花を使用。



※ブーケについている東京2020大会マスコットは、本番では金メダルの選手へは金色のマスコットのように、メダルと対応する色のマスコットとなる予定

3. 復興に関する取り組み

東京2020復興のモニュメント

○コンセプト

被災地から世界へ 感謝・応援～支援への感謝や選手への応援の気持ちを伝える～
世界から被災地へ 感謝・感動～応援への感謝やスポーツのもつ力を被災地に届ける～

○実施体制

次の主体が連携・協力して実施

- ・ 東京2020組織委員会
- ・ 東京都
- ・ 東京藝術大学
- ・ 岩手県、宮城県、福島県
- ・ 株式会社 LIXIL

○概要

LIXILが被災地の仮設住宅の窓などのアルミ建材を回収し再生アルミにする



東京藝術大学の学生と被災地の中高生が協同し、ワークショップにおいてモニュメントのデザインとメッセージを作成

東京藝術大学の学生が再生アルミを材料に各県ひとつずつ、計3個のモニュメントを制作し、大会前に完成を予定

大会期間中、都内の大会関連施設にモニュメントを設置

大会後は、被災地においてレガシーとして継承

3. 復興に関する取組み

東京2020復興のモニュメント

○ワークショップ概要

	岩手県	宮城県	福島県
日時	2019年8月22日（木） 9:00-15:20	2019年8月20日（火） 9:00-16:30	2019年8月19日（月） 9:00-16:30
会場	岩手県立大槌高校	宮城県気仙沼向洋高校	福島県立安積黎明高校
参加者	高校生90名 東京藝術大学美術学部教授 東京藝術大学美術学部学生13名	中高生84名	高校生86名



○決定したデザインイメージ

岩手県、宮城県



福島県



3. 復興に関する取組み

東京2020 NIPPONフェスティバル

テーマD:しあわせはこぶ旅 モッコが復興を歩む東北からTOKYOへ

テーマ

東北復興

コンセプト

復興を歩む東北の現在、東北の文化と魅力を発信する創造の旅

企画概要

東北各県や東北絆まつりと連携し、東北各地・東京を舞台とした文化プログラム。

各会場で東北の人々のメッセージを預かった巨大人形モッコが東京を目指して旅をしながら、国内外へ東北の現在の姿を発信。モッコが東北に根付く文化や人々との出会いを重ねるといったロードストーリーを背景にした新しい形の文化事業を展開する。

事業構成

- 被災3県（岩手県、宮城県、福島県）でのイベント実施
 - ・ 東日本大震災の犠牲者への追悼と鎮魂 津波被害の伝承
 - ・ 地元の伝統芸能や東北文化のステージ
 - ・ 巨大人形「モッコ」のパフォーマンス
 - ・ 東北の人々からのメッセージを収集
- メッセージソングの制作と記録映像メッセージムービーの公開
- 開幕直前の東京でのフィナーレイベント
 - ・ メッセージや東北文化の国内外発信
 - ・ 旅の終着点は新宿御苑、テーマBとともにオリンピック直前の機運醸成

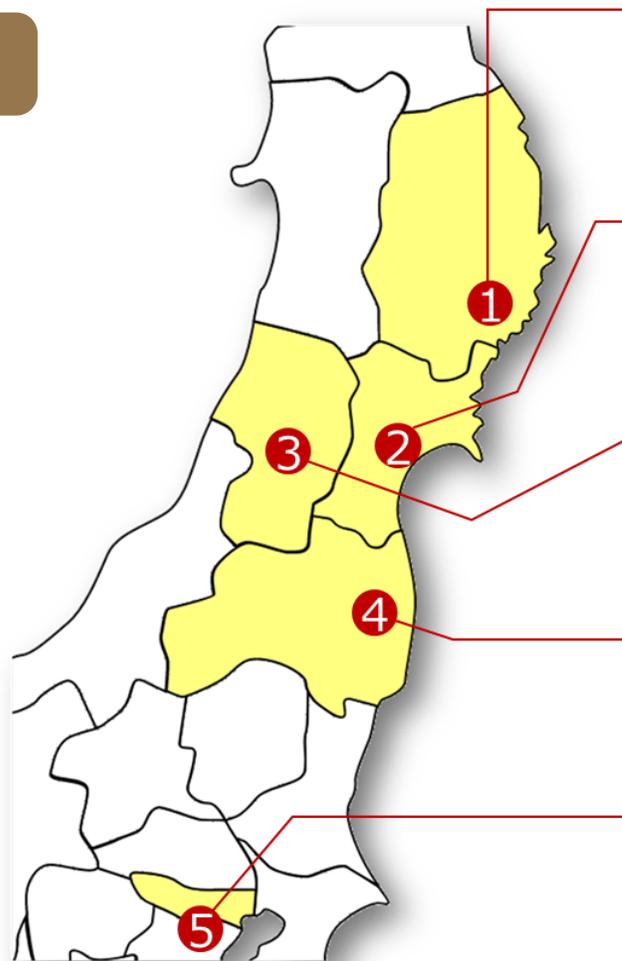


3. 復興に関する取組み

東京2020 NIPPONフェスティバル

テーマD: しあわせはこぶ旅 モッコが復興を歩む東北からTOKYOへ

日程と会場



岩手県 陸前高田市 5月9日 (土)
会場: 高田松原津波復興祈念公園

宮城県 岩沼市 5月23日 (土)
会場: 千年希望の丘 相野釜公園

東北絆まつり2020山形 5月30日 (土)
会場: 山形市内

福島県 南相馬市 6月13日 (土)
会場候補: 相馬野馬追祭場地

東京都 7月18日 (土)
会場: 新宿御苑 (参加と交流会場)

しあわせはこぶ旅

モッコが復興を歩む東北からTOKYOへ



3. 復興に関する取組み

被災地メディアツアー実施報告

○日時及び場所

2019年8月2日(金)～8月3日(土)	福島県
2019年8月18日(日)～8月19日(月)	岩手県
2019年9月14日(土)～9月15日(日)	宮城県

○主催

東京都

○対象

在京している海外メディア

○目的

在京海外メディアの記者を対象として、記者にスポーツの力を通じて元気を取り戻しつつある被災地の姿や、現地でしか伝わらない被災地の復興の様子を世界の多くの方々に発信して頂く為に企画・実施した。

【参考】2018年度はワールド・プレス・ブリーフィングに参加した海外メディアの記者を対象に、宮城県及び福島県を訪問する被災地メディアツアーを実施した。

○ツアーの様子



あづま球場



高田松原津波復興祈念公園



Jヴィレッジ



宮城スタジアム

3. 復興に関する取組み

被災地メディアツアー実施報告

○ツアー概要

福島県



【Jヴィレッジ（双葉郡）】
東京2020大会
オリンピック聖火リレー出発地



【あづま球場（福島市）】
東京2020大会
野球・ソフトボール競技会場



【世界少年野球大会（福島市）】
世界各国の子供たちへの野球教室や
国際交流試合などを取材

岩手県



【釜石鵜住居復興スタジアム（釜石市）】
RWC2019™競技会場
ラグビー国際交流イベントの取材



【高田松原津波復興祈念公園（陸前高田市）】
奇跡の一本松、高田地区海岸防潮堤
などの視察

宮城県



【宮城スタジアム（利府町）】
東京2020大会サッカー競技会場



【ツール・ド・東北（石巻市）】
沿岸部各地を巡るサイクリングイベントを取材

4. 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けたポスター募集企画

企画概要

◆目的

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて、学校や子どもたちの大会への関心を高め、もって、大会の機運醸成を図る。

◆募集期間

2019年8月19日（月）～10月18日（金）

◆作品テーマ

「世界の選手を応援しよう」

◆募集対象

- ・全国の小学生、中学生、特別支援学校小学部、特別支援学校中学部及び海外日本人学校に在学中の児童・生徒。
- ・原則、小学校は5年生、中学校は2年生を対象とする。

◆募集方法

学校ごと50作品に1作品を代表作品として提出

◆応募状況

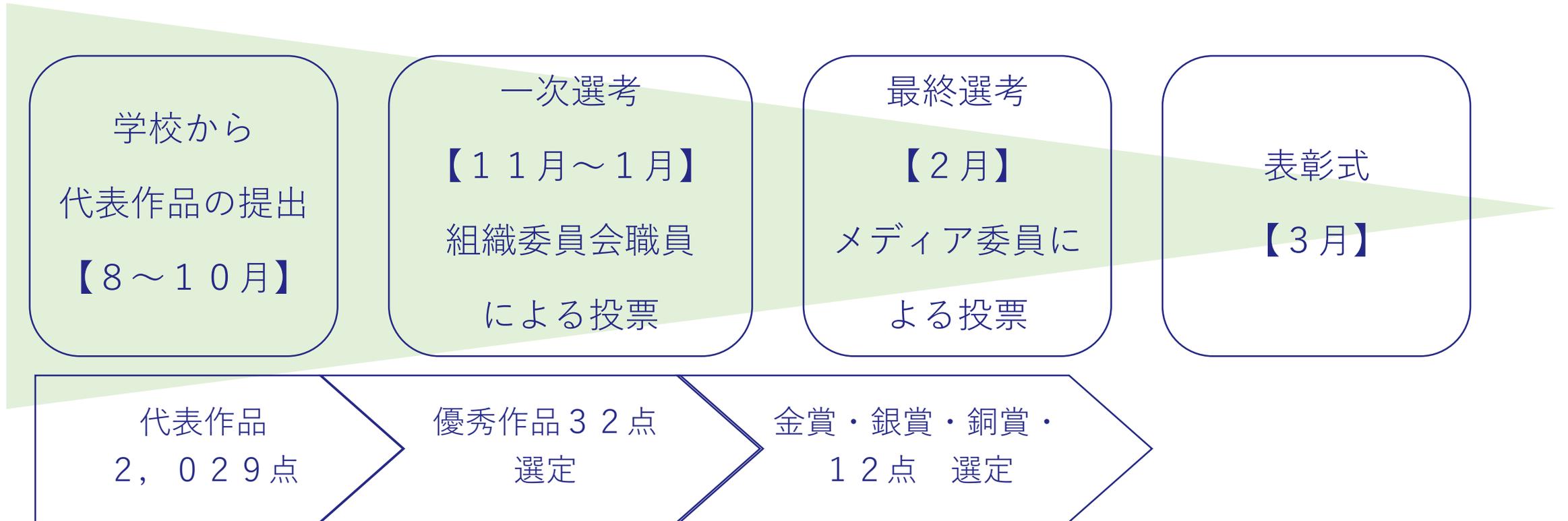
応募総数：37,804点 代表作品数：2,029点 学校数：1,480校 **【いずれも過去最高】**

(参考) 2018年度応募状況

応募総数：31,719点 代表作品数：1,980点 学校数：1,351校

4. 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けたポスター募集企画

選考の流れ



- | | |
|--------------------|--------------------------|
| A 小学校 応募作品より | 金賞・銀賞・銅賞各1点、優秀作品5点 (計8点) |
| B 中学校 応募作品より | 金賞・銀賞・銅賞各1点、優秀作品5点 (計8点) |
| C 特別支援学校小学部 応募作品より | 金賞・銀賞・銅賞各1点、優秀作品5点 (計8点) |
| D 特別支援学校中学部 応募作品より | 金賞・銀賞・銅賞各1点、優秀作品5点 (計8点) |

4. 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けたポスター募集企画

表彰式

(1) 日程

2020年3月7日(土)

(2) 開催場所

パナソニックセンター東京(東京都江東区有明)

(3) 参加予定者

金・銀・銅賞受賞者(計12名)、森会長、日枝委員長、アスリート委員等

(4) その他

- ・ 入選作品については、パナソニックセンター東京にて掲出予定
- ・ パートナー企業提供の賞品及びマスコット等のライセンシンググッズを副賞として授与



2018年度表彰式の様子



パナソニックセンター東京での掲出の様子

4. 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けたポスター募集企画

作品の活用について

作品については以下の活用を想定

(1) 組織委員会での活用

- ①組織委員会ホームページへの掲出
- ②各種イベントでの掲示
- ③組織委員会内での掲示

(2) 自治体、パートナー等での活用

- ①自治体主催イベントでの掲示
- ②自治体広報等での活用
- ③パートナー関連施設での展示

(3) 大会時の活用【検討中】

- ①会場関連施設等での掲示

東京都での展示・活用



イベントでの動画放映



パートナー企業での活用事例



みんなの輝き、つなげていこう。

Unity in Diversity



The Worldwide Olympic Partners



Tokyo 2020 Olympic Gold Partners



The Worldwide Paralympic Partners



Tokyo 2020 Paralympic Gold Partners





アクション&レガシーレポートについて（概要資料）

2020年2月4日

本日の専門委員会でお伺いしたい内容

- アクション&レガシーレポート策定に向けて、各章の構成や記載内容を具体化した概要資料に対する、各委員の皆様からのご指摘やご意見を幅広い観点から頂戴したい。
- 例えば、
記載内容や視点、まとめ方、また、今後の公表の方法等についてお伺いしたい。

アクション&レガシーレポート(暫定版)

全体構成

挨拶等

第一章 はじめに

第二章 スポーツ・健康

第三章 街づくり・持続可能性

第四章 文化・教育

第五章 経済・テクノロジー

第六章 復興・オールジャパン・世界への発信

第七章 東京2020参画プログラム

第八章 東京2020 NIPPONフェスティバル

※参画プログラム一覧は、ホームページへの掲載をもってかえる。

第一章 はじめに

目次と主な内容

1 アクション&レガシーレポートについて

- ・東京2020大会をきっかけとして生まれた取組（アクション）やその成果を、未来につながる（レガシー）ため、2016年にアクション&レガシープランを策定
- ・アクションの成果やレガシーについて、アクション&レガシーレポートとしてとりまとめる

2 オールジャパンでの取組

- ・東京2020大会に一人でも多くの方が参加し、オールジャパンで盛り上げる体制を構築
- ・組織委員会のみならず、関係団体と連携しながら取組を推進

3 各柱を横断する視点

- ・「参画」と「レガシー」は5本の柱の共通理念
- ・東京2020大会は同一都市で2回目のオリンピック・パラリンピックを開催する初の大会であり、パラリンピックの成功を通じた共生社会の実現を目指してきた

4 今後の取組

- ・東京2020大会後も、東京都、政府、JOC、JPCをはじめとする様々なレガシーの担い手により取組が実施されることで、レガシーとして未来につながっていくことを期待
- 東京都**：大会開催の影響等を、レガシー・レポーティング・フレームワークを活用し発信
- 政府**：平成27年11月に閣議決定した「オリパラ基本方針」にレガシーの創出と発信を掲げており、ロンドン大会の取組を参考に検討を進めている

5 本レポートの構成

第六章

復興・オールジャパン・世界への発信

基本的な考え方

(復興) 東京2020大会は、現在の被災地の姿を世界に示す絶好の機会であることから、復興に向かう今の被災地の姿を示すとともに、震災時に世界から受けた支援に対する感謝の気持ちを示すの場となるよう取り組む。

(オールジャパン) 多くの人・団体が様々な形で東京2020大会に参画し、日本全体にポジティブな影響をもたらすよう取り組む。

(世界への発信) 日本の文化・伝統、経済・テクノロジー等を改めて世界に知ってもらい、大勢の外国人を日本に呼び込む機会となるよう取り組む。

	レガシーコンセプト	アクション	実績・成果	レガシー
復興	被災地復興への後押し	<ul style="list-style-type: none"> 東北地方で競技を開催（野球・ソフトボール・サッカー） 被災地から様々な形で大会へ参画できるよう取組を推進（東京2020復興のモニュメント事業等） 復興状況の発信（海外メディア向け被災地取材ツアー等） 	<ul style="list-style-type: none"> 被災地への来訪者数の増 被災地でのスポーツ実施率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 風評被害の払しょくによる更なる産業振興 情報発信の継続による記憶の風化防止
オールジャパン	オールジャパンでの参画	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが大会に参画でき、日本全体での関心を高めるための取組を実施（各地でのライブサイトの実施、全国の小・中学生からのポスター募集等） 全国の自治体・団体が、多数の人々が幅広く参加できるイベント等を、参画プログラムとして実施 ホストタウンの取組を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 全国での大会開催機運の醸成（観戦者数、参画プログラム参加者数等） ボランティア参加者数 	<ul style="list-style-type: none"> 全国各地での地域のつながりの創出 地域連携の仕組みづくりのノウハウの継承 大会を契機としたボランティア文化の定着
世界への発信	<ul style="list-style-type: none"> 観光の活性化 日本の魅力等の世界への発信 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人々が東京2020大会や日本の魅力等に関する情報を自由に発信できる公式の拠点を整備 多言語対応の強化等により外国人旅行者の受入環境を向上 	<ul style="list-style-type: none"> 全国各地への訪日外国人旅行者の増 インバウンド消費の増 日本の文化等の魅力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 観光産業の継続的な発展 外国人旅行者の受入促進による人的・文化的な交流機会の創出 情報発信のノウハウの継承

4 ※上記は現在の案であり、内容については大会後に改めて精査する。

アクション&レガシーレポート策定に向けたスケジュール等について

- 本日の専門委員会でのご指摘やご意見、また、大会における実績や評価等を付加し、全体文案を作成する。
- 2020年10月を目途に各委員長、各委員に持ち回りで文案をご確認いただく。
- 2020年11月～12月、アクション&レガシーレポート公表予定（日・英）
＊ 具体的な、公表媒体、方法等については別途検討

なお、アクション&レガシーレポートの最終確認の進め方については、各委員長と別途相談させていただく。